

# 教員採用試験 合格力育成ゼミ

合格力育成ゼミでは、教採でよく出題される問題を厳選収録しています。頻出問題を繰り返し解いて、知識の定着を図りましょう。毎月の勉強のペースメーカーとして当コーナーを活用し、実力をメキメキとつけていってください。

【特別講座】 論作文 129

【教職教養】 教育原理・教育史 136

教育法規 140

教育時事 144

学習指導要領 147

教育心理 150

【一般教養】 人文科学 153

社会科学 157

自然科学 161

【専門教養】 小学校全科 166

小学校外国語活動 175

中学社会 176

高校日本史 180

高校世界史 182

高校地理 184

高校政治・経済 186

高校倫理 188

中高数学 190

中学理科 194

高校物理 196

高校化学 198

高校生物 200

高校地学 202

中高音楽 204

中高美術 206

中高家庭 208

中高保健体育 210

養護教諭 212

特別支援教育 214

中高英語 216

中高国語 219

## 特別講座 ● 論作文

## 年間スケジュール

監修 鈴木一男 (元東京都教職員研修センター教授)

	Part.1 論作文添削	Part.2 学習のポイント
9月号	「生きる力」の育成 「生きる力」は、これからの変化の激しい社会を子どもたちが自立的に生きるために必要な力です。あなたは「生きる力」をどのようにして育みますか。子どもたちの現状を踏まえ、具体的に述べなさい。	論作文に求められるもの
10月号	「確かな学力」の育成 これからの社会を生きる子どもたちに「確かな学力」の育成が求められています。あなたは授業で「確かな学力」を育成するために、どのような指導を行いますか。子どもたちの現状を踏まえ、具体的に述べなさい。	「具体的に」とは
11月号	規範意識の向上 近年、児童生徒の生活や行動に様々な問題が生じていますが、その原因として規範意識の低下などが考えられます。あなたは児童生徒の規範意識を向上させるため、どのような指導を行いますか。具体的に述べなさい。	道徳教育の充実
12月号	信頼される教師 子どもや保護者から信頼される教師であることは大切なことです。あなたは、どのような教育指導を行うことで、信頼される教師となることを目指しますか。具体的に述べなさい。	言語活動の充実
1月号	個に応じた指導 学校という集団教育の場で、個に応じた指導が求められています。その背景を踏まえ、あなたはどのように個に応じた指導を行いますか。具体的に述べなさい。	体験的な活動の充実
2月号	情報教育 情報化が進む中で、情報教育の重要性が高まってきています。背景も踏まえ、児童生徒に必要な情報教育をあなたはどのように行いますか。具体的に述べなさい。	家庭・地域との連携
3月号	魅力ある授業 児童生徒にとって魅力ある授業とはどのような授業でしょうか。あなたは担当する教科科目でどのような魅力ある授業を行いますか。具体的に述べなさい。	学習評価の改善
4月号	生徒指導 社会の変化とともに、多様で深刻な教育課題が生じています。生徒指導の役割を考え、子どもの状況を踏まえ、あなたはどのように生徒指導に取り組みますか。具体的に述べなさい。	キャリア教育の充実
5月号	「豊かな心」の育成 社会の変化が進む中で、「豊かな心」を幅広く指導の充実が求められています。あなたは、どのような指導を行い「豊かな心」を育成しますか。具体的に述べなさい。	学校安全・危機管理
6月号	学習意欲の向上 子どもたちの学習意欲の向上が求められています。あなたはその背景を踏まえ、学習意欲を向上させるためにどのような指導を行いますか。具体的に述べなさい。	特別支援教育の充実
7月号	いじめ防止の指導 いじめが大きな問題となっています。いじめはどの学校にも起こり得ることを踏まえ、あなたは、いじめの防止やいじめ問題解決のために、どのような指導を行いますか。具体的に述べなさい。	教師に求められる資質・能力
8月号	「思考力・判断力・表現力」の育成 これからの時代を担う子どもたちに「思考力・判断力・表現力」の育成が求められています。あなたはその育成のために、授業でどのような指導を行いますか。具体的に述べなさい。	学習指導要領のねらい

## 学習のポイント キャリア教育の充実

中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月）によると、若者の現状に基づく主なものとして、次のような「課題」を挙げている。

- ・15歳から24歳までの完全失業率は、約9.1%、非正規雇用者の占める割合は約32%であるなど、若者の学校から社会・職業への移行が円滑に行われていない状況がある。その原因の背景には、学校教育が抱える問題にとどまらず、産業構造の変化、就業構造の変化等、社会全体を通じた構造的な問題が指摘されている。
- ・子どもたちが将来就きたい仕事や自分の将来のために学習を行う意識が国際的にみて低く、働くことへの不安を抱えたまま職業に就き、適応に難しさを感じている状況があるなど、学校教育における職業に関する教育に課題が見られる。
- ・子ども・若者の変化として、職業人としての基本的な能力の低下や職業意識・職業観の未熟さ、身体的成熟傾向にもかかわらず精神的・社会的自立が遅れる傾向等、発達上の課題も指摘されている。若者の社会的・職業的自立や、学校から社会・職業への円滑な移行に向けた支援は、関係機関が連携して取り組むことが必要であり、その中で、学校が果たす役割が重要である。

前述の課題に対する方策の一つとして、「**体験的な学習活動の効果的な活用**」を示しており、学習のポイントをアンダーラインで示す。

- 子ども・若者に自らの将来を考えさせるためには、学校内における教育活動だけでなく、具体的に多様な年齢・立場の人や社会や職業にかかわる様々な現場を通して、自己と社会の双方についての多様な気づきや発見を経験させることが効果的である。このように、体験的な学習活動は、キャリア教育を推進する上で極めて重要な取組

の一つである。

- 例えば、中学校における職場体験活動や高等学校における就業体験活動を実施した結果からは、勤労観・職業観が芽生え、職業や働くことへの関心が高まったことや、前向きに自己の将来を設計することができること、自らの意志と責任による進路選択ができること、積極的に人間関係を形成しようとする雰囲気が高まったことなどの効果が挙げられている。
- このような教育効果を踏まえると、体験的な学習活動を日々の活動に積極的に取り入れることが必要である。例として、まちづくりへの提案等といった社会への参加を体験させるような学習と併せて、初等中等教育では、改訂された学習指導要領において小学校では集団宿泊活動、中学校では職場体験活動、高等学校では奉仕体験活動を重点的に推進することとし、職場体験活動・就業体験活動は、キャリア教育の視点からも重要な役割を果たすものと位置付けている。
- 子どもの発達段階を考慮すると、各学校段階における体験的な学習活動の意義や内容は異なってくるものと考えられる。例えば、中学校の時期に行う職場体験活動は、ある職業や仕事を暫定的な窓口としながら職業や仕事を知ると同時に、働く人の実際の生活に触れて社会の現実に迫ることが中心的な課題になると考えられる。また、このような中学生の体験を踏まえて行う高等学校等の生徒による就業体験活動は、将来進む可能性のある仕事や職業に関連する活動をいわば試行的に体験することにより、それを手掛かりに社会・職業への移行準備を行うことが、中心的な課題となると思われる。

## 論作文募集中

- 要項
  - ・横書き400字詰め原稿用紙2枚
  - ・封筒の表書きに「〇月号分」と明記
  - ・別紙に住所／氏名(ふりがな)／年齢／性別／職業(大学生の場合は大学名も)／志望県・志望校種・教科／電話番号／E-mailアドレスを明記
- 締切
  - 6月号 3月10日(木)
  - 7月号 4月10日(日) ※テーマはP129をご参照ください
- 送付先
  - 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5
  - 協同出版株式会社「教職課程」論作文係

## 監修者 ● 略歴

鈴木一男(すずき・かずお)  
東京都立学校教諭、都立教育研究所指導主事・統括指導主事・部長、東京都立学校校長、東京都教職員研修センター教育経営課教授を務め平成21年退職、法政大学理工学部・生命科学部兼任講師を平成25年退職まで10年間務める。  
文部科学省中学校学習指導要領(理科)作成協力者、同省高等学校「総合理科」指導資料作成協力者、法務省人権擁護委員などを歴任。

